

## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
東北電子専門学校		昭和51年3月31日		吉田 博志		〒 980-0013 (住所) 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人日本コンピュータ学園		昭和61年10月22日		持丸 寛一郎		〒 980-0013 (住所) 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	Webクリエイター科		平成27(2015)年度	-	平成27(2015)年度		
学科の目的	PCをはじめ、スマートフォンやタブレット端末のWebサイト制作など、新しいデバイスに対応したコンテンツ制作技術や知識を学修し実践することで、Web業界で即戦力として活躍できる専門的スキルを持ったWebデザイナーを育成する。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容:Webの基本であるHTML、CSS、JavaScriptのコーディング技術、PhotoshopやIllustratorなどのデザインソフトの操作、企画から制作、運用、改善と一連のワークフローを学びWeb業界に必要な知識とスキルを身に着ける。また、企業連携実習により実践的なUI/UXを学ぶ。 取得可能な資格:Webデザイナー検定ベーシック・エキスパート、マルチメディア検定ベーシック、ビジネス能力検定ジョブパス3級、色彩士検定3級							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,052.0 単位時間	370.5 単位時間	171.0 単位時間	1,710.0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
40人	36人		5人		14%	22%		
就職等の状況	■卒業生数(C)		13人					
	■就職希望者数(D)		12人					
	■就職者数(E)		9人					
	■地元就職者数(F)		4人					
	■就職率(E/D)		75%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		44%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		69%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) アイリスオーヤマ株式会社 株式会社BWORKS 他 Web・デザイン業界								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無				
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.ic-21.ac.jp/course/mc/">https://www.ic-21.ac.jp/course/mc/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		2,252 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		173 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		2,052 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		173 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人					
	計		4人					
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
本科の教育課程の編成においては、Web制作について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会(Web・モバイル分野)」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。  
委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、次の過程を経て教育課程を編成、決定する。

1. 本科教員により、次年度教育課程について検討、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会(Web・モバイル分野)」(年に2回以上開催)において、現行教育課程及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、次年度教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、次年度教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和56年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
斎藤 善洋	一般社団法人宮城県情報サービス産業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
伊藤 未知香	インクレイブ株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐藤 健	アキバ株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
山崎 徹	東北電子専門学校 学科主任(委員長)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
高桑 博道	東北電子専門学校 教務課長(副委員長)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
種田 裕一	東北電子専門学校 副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数:年2回開催 開催時期:毎年9月及び12月

(開催日時)

第1回 令和5年 10月16日 17:00～18:00

第2回 令和6年 3月11日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会において、Web制作ではマーケティングがより重要になってきていることから「Webマーケティング」について理解を深めるため、授業時間数を増やす必要があるのではないかと意見をいただいた。現状、「Webマーケティング」の授業は、関連する科目の一項目として実施しているが、体系的に取り組んでいるわけではない。この件については、今後のカリキュラムの変更で対応する予定である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な能力を育成するために、企業等と組織的な連携を取った実習が重要と考えている。連携するにあたっては、知識・技術の学修に加えて、実務を遂行するに必要なヒューマンスキルや仕事に対する意識・姿勢への「気づき」を得ることも重視する。  
また、企業の選定にあたっては、実践的なアドバイスを受けて必要なスキルが修得できるように、現役のWebデザイナーやエンジニアを派遣でき、その指定施設で実習・演習の指導ができることを要件とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

1. 株式会社メンバーズ

(1) 「Webデザイン」の授業科目にて実施

デザイン基礎研修として、Webの特徴、デザインの考えかた、配色等を直接実践的な指導を受ける。UI/UX研修では、UI/UXとは何か、ユーザーのニーズや行動に基づいた設計、リサーチ、ペルソナ作成、これに基づいたプロトタイプ作成をワークグループで実践する。成果物をプレゼンテーションし評価する。

2. 株式会社サンフィールドクリエイション

(1) 「デジタルデザイン」の授業科目にて実施

Adobe Photoshopの操作を習得し、Webの制作で必須の画像加工について様々な手法を学ぶ。バナーの作成を通し実践的なデザインを学ぶ。課題をもって評価する。

(2) 「Web制作 I」の授業科目にて実施

Webディレクションの基本を学ぶ。企画から制作、その後の運用・管理とWebに携わる一連の工程を理解する。それぞれの工程における作業を実践し成果物を提出する。実例をもとにした課題を実施し、Web制作の業務を理解する。課題の提出をもって評価する。

(3) 「Webディレクション」の授業科目にて実施

Webディレクションを実践的に学ぶ。仮想の企業・店舗を想定し実践的にWebサイトを設計する。想定した顧客をもとに目標の設定、企画の立案、デザインを行いプロトタイプ(カンプ)を作成する。それぞれの工程での成果を明確にし作業の進捗を管理する。企画から完成したプロトタイプまでをプレゼンテーションし評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
Webデザイン	【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	・Webとは、Webデザインの基本 ・UI/UXの概要 ・グループワークによるUI/UXのデザインの実践	株式会社メンバーズ
デジタルデザイン	【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	・Adobe Photoshopの操作の習得 ・バナー等のWebサイトに使用する素材のデザインと制作 ・課題の制作	株式会社サンフィールドクリエイション
Web制作 I	【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	・Webディレクションの概要・各工程の理解 ・演習による実践と各工程の成果物の提出 ・課題の制作	株式会社サンフィールドクリエイション
Webディレクション	【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	・Webディレクションの概要・各工程の復習 ・仮想の企業/店舗のWebディレクションとその成果物の提出 ・Webサイトのデザイン(カンプ)の制作 ・プレゼンテーション	株式会社サンフィールドクリエイション

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校は、教員に対する研修の必要性を把握し、その必要性に応じて研修計画を策定し、計画に基づいて研修を実施する。その内容として、専攻分野の実務に関する知識や技術及び授業や生徒に対する指導力等を修得させ、教員の能力及び資質等の向上を図る。必要な場合は、他の機関や企業等と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことがある。これらについては、「学校法人日本コンピュータ学園 教員研修規定」に定めており、この規定に基づいて研修を実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

「Webマーケティング基礎」講座

内容: 「マーケティング」とは何か、基礎的な知識、手法などを学ぶ。

ターゲットを決める方法、3Cのポイント、4P分析、自社分析、顧客分析のフローなど。

連携: 教育課程編成委員へカリキュラム案を提示した際に、Webマーケティングについてもっと取り入れた方がよいとアドバイスをいただいた。授業として展開するときの参考とするために、Webマーケティングの研修を受け体系を学んだ。

対象: 学科教員

日時: 令和6年1月～3月

② 指導力の修得・向上のための研修等

「学生の可能性を引き出すかかわり方」に関する研修

内容:

① 学生とのいい関係性づくりのためのかかわりのポイントを習得する。

② 発達障害などの学生、欠席が多い不登校気味の学生とのかかわりについて理解する。

③ 保護者とのかかわりについて理解する。

④ 承認のストロークについて理解し、承認のロールプレイを実践する。

連携: 出来るだけ多くの学生が進級、卒業できるようにするためのかかわり方を考える、東北電子専門学校の教職員向けのオリジナル研修。

対象: 全教員

日時: 令和6年3月28日

講師: アイディアヒューマンサポートサービス 須田 有見子 氏

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「生成AIと著作権～AIによる生成物への対応および今後の向き合い方について～」

内容:

① 著作権法の基本理念について。

② AIと著作権に関する考え方および観点について。

③ ChatGPTやCopilot 等 AIによる生成物の取り扱い方法について。

④ その他AIに関する知っておくべき著作権法および具体的な対応事例等。

連携: 企業戦略にも影響を及ぼす著作権問題、今回は特にAIによる生成物への対応について、あらためて全教員が共通認識を持ち理解を深めるために、株式会社IPRhinoに協力をいただき研修を実施する。

対象: 全教員

日時: 令和6年8月7日

講師: 株式会社IPRhino 代表取締役 我妻 潤子 氏

② 指導力の修得・向上のための研修等

「学生とのコミュニケーションの取り方に関する研修」

内容:

① 教員としてのコミュニケーションの基礎・アカハラ・パワハラの心理について(講義)

② 教員としての望ましいスタンス・学生に向き合う心構えについて(講義)

③ 学生指導のポイントを学生との望ましいかかわりについて(グループワーク)

連携: 学校関係者評価委員会において、退学・休学などのリタイアに関する指摘を頂き、改めて教員として学生にどのように接することが望ましいのかを再認識する。メンタルの問題を抱える学生が増えている現状を踏まえて、教員と学生との信頼関係を構築し、学生と向き合う心構えを学ぶため研修を行う。

対象: 全教員

日時: 令和6年8月22日

講師: 独立行政法人 労働者健康安全機構 青森産業保健総合支援センター 今村 泰章 氏

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び職業実践専門課程として推薦する学科(以下、「当該学科」という。)の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(以下、「委員会」という。)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。

委員会は、学校の重点目標、計画、自己評価等について評価し、特に当該学科については、その教育目標、育成人材像、教育課程の編成、キャリア教育、資格取得の指導体制等について重点的に評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめ、広く公表する。

学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の継続的な改善を行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目的	a. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) b. 学校における職業教育の特色を示しているか c. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか d. 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか e. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか b. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか c. 運営組織や意志決定機能は、明確化され、有効に機能しているか d. 人事、給与に関する制度は整備されているか e. 各部門の組織整備など意志決定システムは整備されているか f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか g. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	a. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか c. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか e. 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか f. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか g. 企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか h. 授業評価の実施・評価体制はあるか i. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか j. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか k. 必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか l. 関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか m. 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 就職率の向上が図られているか</li> <li>b. 資格取得率の向上が図られているか</li> <li>c. 退学率の低減が図られているか</li> <li>d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>b. 学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>c. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>f. 学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>g. 保護者と適切に連携しているか</li> <li>h. 卒業生への支援体制はあるか</li> <li>i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>j. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>b. 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>c. 学生が自主的に学修するための環境が整備されているか</li> <li>d. 防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>c. 学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>c. 財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>d. 財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>b. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>c. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>d. 自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>b. 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>c. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか</li> <li>b. 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>c. 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> <li>d. 学内で適切な体制が整備されているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会において職業教育のマネジメントについて議論があり、高校生の進学に際して「3つのポリシー」を重視することの重要性が言及された。高校生や保護者、高校教員が進学先の教育方針や求める人材像をより知りたいたいと考えているため、これをよりオープンにする必要があるとの提案があり、これを受けて、学校ホームページの構成を見直し、「3つのポリシー」にアクセスしやすくする工夫を加えた。また、「3つのポリシー」は教育の質向上のため、PDCAサイクルを用いて継続的に改善していくことが重要であるとの認識が共有された。

また、退学率の低減についての議論では、学校として課題や要因を把握することが重要であるとの指摘を受けた。これに基づき、退学率低減に向けた取り組みを強化するため、スクールカウンセリングの強化や学生への適切な支援方法に関する教員研修やフォローアップを行うこととした。早期に問題点を発見し、担任だけでなく学生相談員やカウンセラーなど複数の関係者が関与する対応を行うことで、退学者の減少を目指す。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
小澤 賢侍	公益財団法人 画像情報教育振興協会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界団体
笠松 博	宮城県産業技術総合センター	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
川島 健太郎	株式会社 ヒノタマ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
菊田 正信	卒業生	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
岸浪 行雄	株式会社 東北共立	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
近藤 大輔	リコージャパン 株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 浩之	株式会社 アルゴグラフィックス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 富士夫	宮城県電気工事工業組合	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界団体
庄司 直人	株式会社 リード・サイン	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
鈴木 一徳	スズキハイテック株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
玉川 陽児	株式会社 サンフィールドクリエーション	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
千葉 清純	一般社団法人 宮城県建築士事務所協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界団体
角田 透	株式会社 JC-21教育センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
水本 豊	株式会社 ミヤギテレビサービス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公開方法: ホームページで公開 <https://www.jc-21.ac.jp/publish/se/>

公表時期: 毎年7月中旬に更新

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、学校教育法、私立学校法で定められた目的を実現するための教育機関として、教育活動の活性化や学校運営の円滑化を図るとともに、企業等との繋がりを強め、連携推進に資するために情報公開を行う。  
 提供する情報は、学生及び保護者、入学希望者、企業関係者等に対して、学校の教育目標・教育活動の実績・キャリア教育等の教育基礎情報を始め、学校評価等の学校全体の状況に関することとする。  
 なお、提供に当たっては、個人情報の取扱いに留意するとともに公正な情報の表示に努めるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	設置者名、学校名、所在地、連絡先、理事長名、校長名、教職員数、学生数、教育理念、事業計画、学校の特色、沿革
(2) 各学科等の教育	修業年限、募集定員、学科案内(学科の特色、取得を目指す資格、職種、学びのステップ)、カリキュラム、入学者数、資格取得実績、卒業者の進路
(3) 教職員	教職員数、教員組織・担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導、就職支援プログラム、各種連携・連携教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動、教育施設・設備(校舎概要、主な施設・設備の特色、主な実習設備、その他施設・設備)
(6) 学生の生活支援	学生支援体制、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	初年度学費一覧、入学手続き金の分割納入について、授業料等の分割納入について、学費サポート制度(特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローン、新聞奨学生制度、教育ローン)
(8) 学校の財務	財務情報(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)
(9) 学校評価	学校評価、自己評価、学校関係者評価、職業実践専門課程の基本情報
(10) 国際連携の状況	留学生対象学科: 国際ビジネス科の特徴、取得を目指す資格
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、卒業制作展等学校・学科が主催するイベントで情報提供

<https://www.ic-21.ac.jp/publish/>



授業科目等の概要

(工業専門課程 Webクリエイター科) 令和6年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			就職対策 I	一般常識や適性試験対策を中心に学習する。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学ぶ。また会社訪問のしかたや面接はビジュアル教材を使い、実践トレーニングを行う。	1通	57		○			○		○		
2	○			Webデザイン	HTMLやCSSを理解し、アプリDreamweaverやAdobeXDを活用しWebページのデザインを学ぶ。	1通	199.5		△		○	○		○	○	○
3	○			デジタルデザイン	Webデザイン・グラフィックデザインにおいて必要なアプリケーション（Photoshop・Illustrator・XD）を修得し、デザイン・表現方法を学ぶ。	1前	171		△		○	○		○	○	○
4	○			Web制作 I	Webサイト制作の仕事と役割分担を理解し、企業・お店を想定したWebサイト制作（企画・設計・制作）を実践する。	1後	114		△		○	○			○	○
5	○			Webプログラミング	プログラミングの基本を学び、JavaScriptを用いた動的なWebページの作成を学ぶ。	1通	114		△		○	○		○		
6	○			WordPress 基礎	WordPressでカスタマイズからCMSサイト構築までできるよう、インストール、基本設定、操作方法等を学ぶ。	1後	28.5		△		○	○		○		
7	○			DTPデザイン	ロゴ・地図などの図版やポスター・DMなどの各種印刷媒体について、デザイン技術の基礎能力を制作を通じて学ぶ。	1後	57		△		○	○		○		
8	○			色彩演習	デザインにおける色の効果的な使い方や色彩の基本を学び、カラーマスターの試験範囲を学習する。	1通	57		△	○		○			○	
9	○			広告概論	広告宣伝のあり方や社会での位置づけ、商用サイト構築のためのマーケティングの基礎を学ぶ。	1後	28.5		○	△		○			○	
10	○			プランニング	企画の立案からプレゼンテーションまでの流れを学ぶ。	1通	57		△	○		○			○	
11	○			インターネット基礎	インターネットとWebの特性・種類、Webサイトを制作するうえで必要とされる基礎を学ぶ。	1前	57		○		△	○		○		
12	○			マルチメディア基礎	コンピュータや周辺機器、インターネット、デジタルコンテンツ、携帯電話、知的財産権、マルチメディアの社会応用などに関する幅広い知識を学ぶ。	1後	57		○		△	○		○		

13	○		ビジネススキルトレーニング	ビジネス社会で必須とされるアプリケーションソフトでレポート・資料作成に必要な知識・スキルを身に付ける。	1前	28.5		△	○	○	○							
14	○		就職対策Ⅱ	デザイン業界で必要とされるポートフォリオの制作、作文の書き方・模擬面接練習を行い就職試験に備える。	2前	57		○		○	○							
15	○		Web制作Ⅱ	企業・お店のWebサイトの新規案、または、リデザイン案の企画・プレゼン・制作を通し、オリエンテーションからデザインカンパ作成・コーディング、その後の管理までの一連の工程の実践を行う。	2前	142.5		△		○	○	○	○					
16	○		jQueryデザイン	jQueryの基礎から応用まで演習し、Webサイトをブラッシュアップしていく方法を学ぶ。	2前	57		△		○	○	○						
17	○		Webディレクション	Webサイト全体の制作プロセスを学び、Webディレクターに求められる能力を養う。	2前	28.5		○		△	○						○	○
18	○		UIデザイン	スマートフォン&タブレットに最適化するためのテクニックを学ぶ。 Webやアプリのインターフェースや考え方、ブックの構成要素などの基本を学ぶ。	2通	114		△		○	○	○	○					
19	○		グラフィックデザイン	様々なメディアでのデザインを実践的に学ぶ。	2通	114		△		○	○							○
20	○		コピーライティング	キャッチコピーの要素、表記、論理などコピーライティングに必要な基礎と表現技法を学ぶ。	2前	28.5		△	○		○							○
21	○		映像編集	Adobe Premiere、After Effectsで映像のデジタル合成やモーショングラフィックス、タイトル制作など映像表現を学ぶ。	2前	114		△		○	○	○						
22	○		3DCG	3DCGソフトを使い、モデリング、テクスチャマッピング、ライティング、レンダリング、アニメーションの手法を学ぶ。	2後	57		△		○	○	○						
23	○		卒業制作	2年間の集大成として、個人またはグループ毎にテーマを設けWebサイト制作を行う。	2後	313.5		△		○	○	○	○					
24		○	ボランティア活動	校内外におけるボランティア活動を行う。	1後 2後	28.5		△		○	○	○						
25		○	CGアプリケーション入門	3次元CGの初歩的な制作方法を実習を中心に学ぶ。	1後 2後	28.5		△		○	○							○
26		○	英会話基礎	日常英会話の基礎を学ぶ。	1後 2後	28.5		○		○								○
27		○	コミュニケーションスキル講座	円滑な対人関係、組織の活性化、および、良いコミュニケーションに必要な「話す」「聞く」といった知識と能力を身につける。	1後 2後	28.5		△		○	○							○

28		○	就職作文対策	就職試験で出題されることが多い作文について、基礎的な書き方やコツなどを学ぶ。	1 後 2 後	28.5			○		○				○
29		○	経営とビジネス	技術者にも必要な会社における会計の基本と経営との関係について学ぶ。	1 後 2 後	28.5		○			○				○
30		○	実践カラーコーディネート	配色調和、色彩心理などカラーコーディネートの知識を基に、対象別の実践的配色技法を学ぶ。	1 後 2 後	28.5		○		△	○				○
合計					23科目			2052単位時間( )							単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：2年間で1700時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。 履修方法：必修科目は全科目を履修すること。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	19週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。